

名前：

インターネットの普及に伴い、ニュースはネットで見ると、という人が増えてきている。一方で新聞や雑誌の発行部数は減少傾向にあるようだ。この現状に対して、私は賛同する。

そもそも新聞や雑誌は、その国や地域で起きた出来事を即座に大衆に知らしめる手段として生まれたものだ。日本では、近代になって新聞が広まる以前は、口伝えや立て看板によってニュースが伝わっていたものが、国家の整備とともに、各家庭に届けられる新聞という形に発展した。時代の変化に伴って、ニュースを伝えるメディアが変わっていくのは当然のことではなかっただろうか。

また、インターネットであれば、今日ではネット接続可能な携帯電話も普及しているため、いつでもどこでも最新のニュースが手に入る。情報を発信する側からしても、素早く、ほとんど費用をかけずに発信できる。紙媒体ではどうしても印刷・輸送の分だけタイムラグが生じるとし、新たなニュースを配信する

までに時間が掛かってしまう。情報の即時性という点でも、インターネットの利点は新聞・雑誌をいさか上回っている。

もう一つ新聞や雑誌にメリットが無い訳ではない。出版社は長年の業務で培ってきたノウハウを持っており、ホームページよりも大きい。しかしてスッコミであるがゆえに情報を一部隠して報道することはいくあるし、企業利益のために片寄った見解を述べることもしばしばだ。それに対してインターネットでは、多数の発信源があるため情報の真偽を見誤まる恐れがある。たり、発信者の個人的な感情で偏見を生む危険もあるが、多数の情報を比較・検討して情報の精度を上げることはできる。

このようにメディアもメリット・デメリットはあるが、今や新聞の記事や社説がネットで公開されている以上、新聞で得られる情報の多くはネットでも得られるので、やはり新聞の存在価値は高いと思う。

1800字